

学内広報誌

じんげん ア ジ ー ル asile

春夏号
2023
大谷大学広報誌

pp.2-3 巻頭対談「人間学」

大谷大学の学びの礎
「人間学」から
学んだこと

pp.14-15 内定者インタビュー

就職活動のあれこれ

「人間学」から 学んだこと



開学以来、受け継がれている大谷大学の理念「人間学」。
学部を問わず、誰もが第1学年でまず立ち止まって、
仏教を基本に人間を見つめ、自分を見つめ、そして人間について考えます。
人間学から、みんな何を学んだのでしょうか。4人の学生に学長が話を聞きました。

自分を見つめ直すきっかけ

学長 第1学年の必修科目である「人間学Ⅰ」ですが、何を学び、どんなことを受け取ったのかを聞かせてもらいたいと思っています。

藤本 人間学は、今の自分を見つめ直すきっかけになりました。これまでの自分にはなかった目線で、世界を見ることができたからです。

学長 物の見方あるいは考え方に変化が生まれたのですね。コミュニケーションデザイン学科での学びにも影響はありましたか？

藤本 大谷大学の「Be Reader」寄りそう知性」というメッセージを見て、寄りそうことは、人とかかわることだと考えるようになりました。学科の学びでも大切なテーマなので、普段から意識して、取り組むようにしています。

学長 人間は他者との関係の中で生きています。お互いが大事な存在として認めあうということが、人間の根幹の一つではないでしょうか。

「欲」との向きあい方

奥野 私は、人間の欲望について学びました。必修科目でなければ、まず自分から考えることはなかったテーマです。「欲」はあって当たり前ということと、欲を満たしたらまた新たな欲

できました。

学長 我執という言葉に出あったことで、歴史学科の学びにつながることはありましたか？

是枝 人間の我執に焦点を当てて、過去の歴史をひもとく研究をしていきたいと思いました。同時に、現代社会の問題や国際問題についても、我執のような人間学的な視点から考察して、自分の意見を持ちたいと思っています。

学長 自分自身の学びのテーマが見つかったんですね。

是枝 ほかにも、身近な言葉である「四苦八苦」が印象に残っています。

学長 自分だけが苦しいわけじゃなくて、みんな誰もが苦しみを抱えているということですね。

是枝 はい。釈尊の生きていた時代から、人はみんな苦しみを抱えていたんだ

が生まれる、無限ループだということも学びました。

学長 仏教では、「無欲」になることを勧めているように思いますよね。

奥野 はい。そう思っていました。

学長 山に籠もって修行するのなら、無欲になれるのかもしれませんが、一般社会ではなかなか難しい。欲は、何に向けるかが問題です。欲が自分中心に向かえば人を排除することになるし、逆に支えあって生きていこうとするものに向けることもできます。

奥野 生きていくうえで、欲は不可欠なものだとプラスの意味で捉え、自分の今後の挑戦のために生かしていきたいです。

学長 よい意味としては「意欲」という言葉もありますからね。

奥野 第2学年で受講した「人間学Ⅱ」では、先生の言葉がとても記憶に残りました。「授業で言ったことが、すべて正しいと思わないでほしい」と。ネットの情報やテレビのニュースも、すべての情報が真実を伝え



と学びました。

学長 現代では、世間で評価されるということが最優先になっていて、そうじゃないと生まれきた価値がないみたいになって苦しんでいる人も多いですね。

是枝 歴史を学んでも、時代ごとにさまざまな苦しみがわかれます。

学長 釈尊や親鸞聖人のように、私たちが先立って、悩んだり苦しんだりした方がいて、その生き方に学ぶと、道が開けるということがあります。それを人間学を通して知ることができたのですね。これから生きていくうえで、悩んだときや苦しいときに、思い出してほしいと思います。

大学で出会う

学長 人間は「人」と「間」と書くとおり、かわりの中で生きています。大学は人が集う場です。ネット空間と違い、生の人間関係は手間がかかるかもしれないですが、あって話してみること互いを理解しあってほしいと思います。そこには通じあえた喜びがあります。また、図書館に行けば、先人たちに本の中で出会うこともできます。「人間学」は、一人ひとりが持っているタネに、水をまくような学問です。いつ芽が出るかわかりませんが、人生において力になることがあると信じています。

ているかどうか、まずは一度疑うことが重要だとおっしゃいました。

学長 今はSNSからも情報を得る時代ですよね。友達と同じニュースソースについて話してみると、違う受け止め方があることがわかりますよ。

奥野 自分の考えのみで判断するのではなく、さまざまな情報から正しい情報を選んで、自分で信じるか信じないかを決めることが重要だということ学びました。

学長 友達や先生と確かめあえる、集える場があるというのは、大学の強みだと思います。

ボランティア活動への参加

原 私も、人間学がなければ、自分と真摯に向きあうことはしなかったと思います。第1学年では、同じ経典でも、日本語と中国語、チベット語では、訳し方が違うことを学びました。第2学年からは、環境問題に関する「人間学Ⅱ」の授業を選びました。授業の一環で、「祇園祭ごみゼロ大作戦」というボランティア活動に参加して、ごみの分別回収を呼びかけたのですが、快く協力してくださる方が多く、呼びかけることの大切さを実感しました。

学長 京都のまちで人とのさまざまな出会いがあったでしょうね。一人の人間として実際に社会と連携する

ことも、人間学の第2学年での学びの一つです。活動に参加して自身に何か変化はありましたか？



原 日頃から、ごみの分別とごみを減らせる買い物心がけています。今後、も習慣化して、小学校の先生になっても続けていきたいと考えています。

学長 次は子どもたちに伝える立場になれるよう、ぜひ続けてほしいと思います。

人間の本质は「我執」という驚き

是枝 授業で、人間の本质は自分中心の考えにとられる「我執」ということを聞いたときは、本当に衝撃を受けました。そこで、自分の言動や思考を振り返って、自分がどういう点で、「我」にとられやすいか、どう改善できるかと、考えてみる時間が



Q1 人間学の印象は？

文字通り「人間とは何なのか」について考える学問だと思っています。大谷大学の人間学の授業は、人間という存在を仏教の観点から解明している印象です。私は、釈尊の生涯についてふれ、そこから釈尊がどのように世の中について説いたのか、その教えは人間の歴史にどのように関わっているのかを学びました。

Q2 人間学の授業で自身に変化はありましたか？

「我執」を授業で学んだことで、自分は何者なのか、相手はどんな人物かと、自己と他者に理解を示すことの重要性を学びました。



Q3 人間学で学んだことを、今後どのように生かしたいと思いますか？



人間の持つ「我」に焦点を当てて、歴史を研究していきたいです。また、現代を取り巻く社会問題や国際問題に対しても、人間学的な視点から自分の意見を持ちたいと思います。

人間学から学んだこと

一楽学長と大谷大学の学びの土台である「人間学」について話した4人。人間学の学びの内容や、気づきをどう生かしていくかなど、それぞれの想いを深掘りしました。

人間学紹介ムービーはこちら



文学部 歴史学科 第3学年
是枝 恵



社会学部 コミュニティデザイン学科 第3学年
藤本 恒也



国際学部 国際文化学科 第3学年
奥野 茉鈴

Q1 人間学の印象は？



自分の学部ではふれる機会のないような内容も学ぶことができる授業なので、とても貴重だと思います。第2学年では、学部に関係なく興味のある授業を選べます。そこも学びに対する意欲を向上させてくれます。

Q2 人間学の授業で自身に変化はありましたか？

環境問題や環境保全のためのさまざまな取り組みを知って、今の自分の生活や、今後の生き方を考え直せました。また、高校までは「なるようになる」という考え方がでしたが、自ら考えて行動できるようになりました。



教育学部 教育学科 第3学年
原 萌々子

Q3 人間学で学んだことを、今後どのように生かしたいと思いますか？

知識を得て、自分を見つめ直すことや考えを発信していくことは、小学校の教員をめざすうえでも意識していきたいと考えています。

Q1 人間学の印象は？

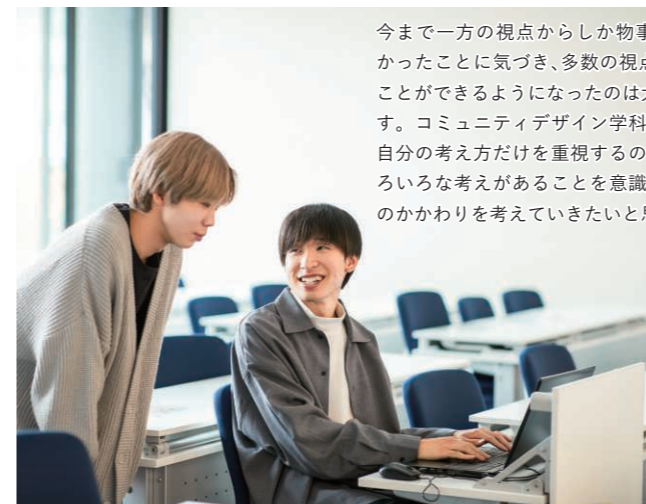
今の自分を見つめ直し、これからの自分について考えていく学びだと思っています。第1学年の時は、大学の歴史や親鸞の人生について学びました。「人間学Ⅱ」では、幅広い分野の講義を通して、自分の生き方について考える機会になりました。

Q2 人間学の授業で記憶に残ったことはなんですか？

先生が実際に世界を旅してきた経験を元に話される講義が記憶に残っています。今までとは違った目線から世界を見ることができました。

Q3 人間学で学んだことを、今後どのように生かしたいと思いますか？

今まで一方の視点からしか物事を見ていなかったことに気づき、多数の視点から捉えることができるようになったのは大きな変化です。コミュニティデザイン学科の学びでも、自分の考えだけを重視するのではなく、いろいろな考えがあることを意識して、地域とのかかわりを考えていきたいと思いました。



Q1 人間学の印象は？

一つの人間の生き方・考え方を提示しているという印象を持っています。自分がどう考えるか、どう生きるかは、自分自身で決めなければいけないこと。それを決めるうえでの参考として捉えています。

Q2 考え方や生活に変化はありましたか？

広い視野から物事を捉えられるようになりました。また国際学部で、自分と異なる考えや背景をもつ人たちと出会う際にその視野が生かされています。さまざまな角度から受けとめることで刺激を受け、チャレンジ精神が高まりました。

Q3 人間学で学んだことを、今後どのように生かしたいと思いますか？

一人ひとりの個性を否定せず、ありのままを受け入れ尊重することを大切に、北欧にならった日本教育のあり方について考えていきたいです。





5 講堂棟

入学式・卒業式やさまざまな宗教行事が行われる講堂のほか、地下1階には学内食堂があります。

4 博綜館

1階には保健室・学生相談室・人権センター、2～5階には、教員の個人研究室があります。

6 体育館

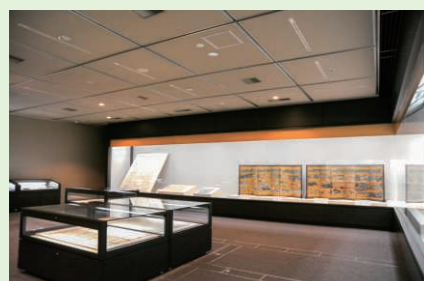
アリーナや剣道部、卓球部、空手道部が使用する練習室のほか、トレーニングマシンなどの設備が整ったトレーニングルームがあります。

7 8 4・5号館

主に教職課程に関する授業が行われます。実際の学校や保育現場の様子がイメージしやすい模擬授業教室・多目的ルームや音楽室・図工室・理科室・ピアノレッスン室などがあります。4号館1階には教職支援センターがあり、教員を志す学生の支援を行っています。

9 響流館

図書館、博物館、総合研究室、真宗総合研究所、メディアホールなど、さまざまな教育・研究効果を高める施設を配置しています。また、学内食堂付近には、学内コンビニ、学内書店があります。



1F 博物館

真宗学・仏教学・哲学・歴史学・文学など、貴重な典籍や民俗資料など約12,000点を所蔵し、そのうち10点が国の重要文化財に指定されています。定期的に企画展や特別展を開催しています。



B2F-2F 図書館

蔵書数は約88万冊、1・2階の閲覧室には約15万冊の図書や資料が充実しています。2階のカウンターではノートパソコンを貸し出ししているのので、レポート作成や情報収集に活用することができます。



3F 総合研究室

研究に必要な辞書・図書を自由に閲覧でき、ノートパソコンを借りることもできます。任期制助教が常駐し、学習や研究についての相談にのるほか、輪読会・勉強会なども開催しています。



1 尋源館

(国・登録有形文化財)

1913年に竣工され、2023年に110周年を迎えます。赤レンガの外装が特徴の本学のシンボルです。2階の尋源講堂では、朝の勤行が行われています。



2 2号館

仏教教育センターや幼児教育関連の実習室があります。

3 慶間館

1階中央の学生ロビー「ミナイール・プラザ」の周りには、学生支援窓口、学習支援室、文藝塾、語学学習支援室などさまざまな学習支援施設を配置しています。3階には情報系教室、4・5階には教員の個人研究室もあります。

PICK UP!

2F/4F サブゼミスペース



活用方法

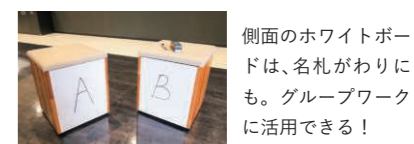
- 1 プロジェクタとホワイトボードを使ってプレゼンや模擬授業の練習に使える!
- 2 プロジェクタには無線LANでさまざまなデバイスの画面が投影できる!
- 3 活用スタイルにあわせて、椅子を移動させたり、重ねたりできる!

椅子の活用例 /

自由な発想で使おう!



組み立てればベンチの他に、2段席にもなるため、人数が多い際に活用できる!(土足厳禁)



側面のホワイトボードは、名札がわりにも。グループワークに活用できる!



椅子の中は、荷物の収納に使える!

1F 文藝塾

プロの技術を学び、文章力を鍛える“道場”で、「書く力」を養うための場です。ガラス張りのスペースには、文藝を通じた交流サロンとして、さまざまな学生が集います。



1F 学習支援室 (LEARNING SQUARE)

基礎学力向上のための、サポートスペースです。アドバイザーの教員から外国語やレポートの作成方法について個別指導が受けられます。



1F 語学学習支援室 (GLOBAL SQUARE)

海外留学や外国語習得、海外の文化に関心のある学生や、外国人留学生が集う場所です。少人数制の外国語勉強会や交流会の開催、留学希望者へのサポートなど、きめ細かく支援します。

好きなこと、新しい可能性にとことん夢中になってみよう!



教育学部 教育学科 第3学年
安部夏海

スローガンは「まずは、書道を楽しむ」。書道はもちろん創作も行い、各人思い思いの作品を作ることができます。週3日の活動で、年3回の学内外展示会向けの作品を制作しています。学内では毎月「きょうのことば」に掲載されていることばを書き、正門と北門の伝道掲示板を制作していますので、ぜひチェックしてください！書道は習字よりも自由でアートの側面もあり、一人ひとりの性格が表れるのがおもしろいところ。字の巧拙は気にせず、「まずは、書道を楽しむ」ことから始めてみませんか？



書道部



文学部 歴史学科 第3学年
黒川 椋平

バドミントンは、季節を問わず初心者も気軽に楽しめるスポーツです。部内の雰囲気は和気あいあいとしていますが、試合となると運動量や瞬発力を要し、対戦相手との駆け引きもかなりハード。団体戦・個人戦ともに勝ち上がることをめざして練習していますが、楽しむこともスローガンにプレーしています。バドミントン部では、団体戦などで同じ目標を持って練習することで団結力が身につく、1年生の秋には役職を与えられるので責任感が養われます。初心者でも経験者でも大歓迎でお待ちしております！



バドミントン部



社会学部 現代社会学科 第4学年
宮澤 春汰

夏に開催される新人公演、冬の引退公演、春の卒業公演と年3回の自主公演に向けて日々稽古に励んでいます。「楽しい」という感覚を大切に、新しい自分を発見する楽しさや作品を観てくださる観客を通して出会う楽しさなど、さまざまな楽しさを感じてもらえると思います。主にコメディタッチのストリートプレイで、部員が脚本を手がける作品も。照明や音響の設置など、演技以外の舞台表現も自分たちで行っており、みんなの感性を持ち寄って一つの作品を完成させ、観客に届けています。この一体感がたまりません。

演劇部





文学部 真宗学科 第4学年
浅井 歩

ジャズ研究会とはいえ、音楽はジャンルレスで自分たちのやりたい音楽、好きなバンドの曲を演奏しています。ライブに向けてメンバーを入れ替えたり、自由にゆるやかに、でもやるときは気合を入れることがモットー。「みんなで音楽を楽しむ」という、シンプルですが大事なことを胸に活動しています。楽器未経験者が多く、優しい先輩に教わり、楽器が弾けるようになります。同学年の横のつながりだけでなく、先輩や後輩といった縦のつながりも作ることができます。音楽に興味がある方は、ぜひジャズ研究会を覗いてみてください。

ジャズ研究会



クラブやサークルにしたい新入生必見!

2023年新入生歓迎イベント 若葉祭



2023年4月8日(土)開催予定!
 新入生の皆さんに4月から充実した学生生活を送ってほしいという願いを込めて、4月8日(土)に新入生歓迎実行委員会が若葉祭を企画しています。
 若葉祭では課外活動団体のパフォーマンスや活動紹介を行い、教室にて課外活動団体の展示・勧誘ブースなどの企画を実施する予定です。ぜひご参加ください。
 ※企画は2023年1月現在のものとなります。新型コロナウイルス感染症の影響などにより変更・中止となる場合がありますので予めご了承ください。

2023年度前期博物館開館予定 開館20周年

※詳細は本学ホームページをご覧ください。

春季企画展

2023年4月1日(土)~5月13日(土)
 大谷大学のあゆみ
 大学の前身・学寮の時代

夏季企画展

2023年6月6日(火)~7月29日(土)
 賀茂の歴史と信仰

秋季企画展

2023年9月5日(火)~9月23日(土)
 大谷大学博物館学課程2023年度実習生展

2022年12月21日・22日



インド文化交流評議会主催 「THE QUIZ ON BUDDHISM」開催

インド文化交流評議会が主催するインド仏教クイズ大会を開催しました。参加者は85問からなる仏教に関するオリジナルクイズに挑戦。成績優秀者には、駐日インド大使館から表彰状と景品が授与されました。

お知らせ

【2023年度開始】
 大谷大学大学院博士後期課程
 研究支援給付奨学金を創設

このたび、人物及び学業成績が優秀でありながら経済的事情により修学及び研究が困難な者に対し、修学及び研究を継続させることを目的とした「大谷大学大学院博士後期課程研究支援給付奨学金」を創設いたしました。詳細は大学Webサイトにてご確認ください。

2022年11月30日

感じたら、
書きとぎ。

高校生・中学生対象 「大谷大学文藝コンテスト」受賞作品決定

7月から応募受付を行っていた「大谷大学文藝コンテスト」の受賞作品が決定しました。全国から多数のご応募ありがとうございました。

受賞作品一覧はこちら



2022年12月6日



総合研究室 「学生のためのガクモン講座」開催

学問の意義や面白さを学生に伝えるために、任期制助教が「ガクモン講座」を開催しました。「愛とはどんなものだろう」というテーマのもと各専門分野からの提題を行うことで、多角的かつ学問的に考える機会となりました。

2022年11月29日



GLOBAL SQUARE交流イベント 「GAME PARTY」開催!

NCC宗教研究所のドイツ人留学生との交流イベントを開催。日本とドイツの伝統的な遊びを通して、外国語を使った交流を行いました。

GLOBAL SQUAREでは留学生との交流イベントを随時開催中!

2022年10月30日



中国語スピーチコンテストで 本学在学生在が受賞

京都府日本中国友好協会が主催する「第40回全日本中国語スピーチコンテスト 第2回京都府大会」が10月30日(日)に開催され、6名の本学学生が出演し、審査員特別賞・奨励賞を受賞しました。

2022年11月19日



中西 麻一子助教が 「佐和隆研博士学術研究奨励金」受賞

文学部 中西 麻一子 助教が、論文「草刈人の布施説話とその図像表現」において、密教図像学会「2022年(令和4年)度佐和隆研博士学術研究奨励金」を受賞しました。

大学 Webサイトでも最新情報を更新中!



SNSでも大学の動きをチェックしよう!

Instagram: otani_univ
 Twitter: @otaniuniv_staff
 Facebook: @otaniuniversity
 YouTube: otaniuniversity

※キャンパストピックスの学年表記は2022年度のものです。

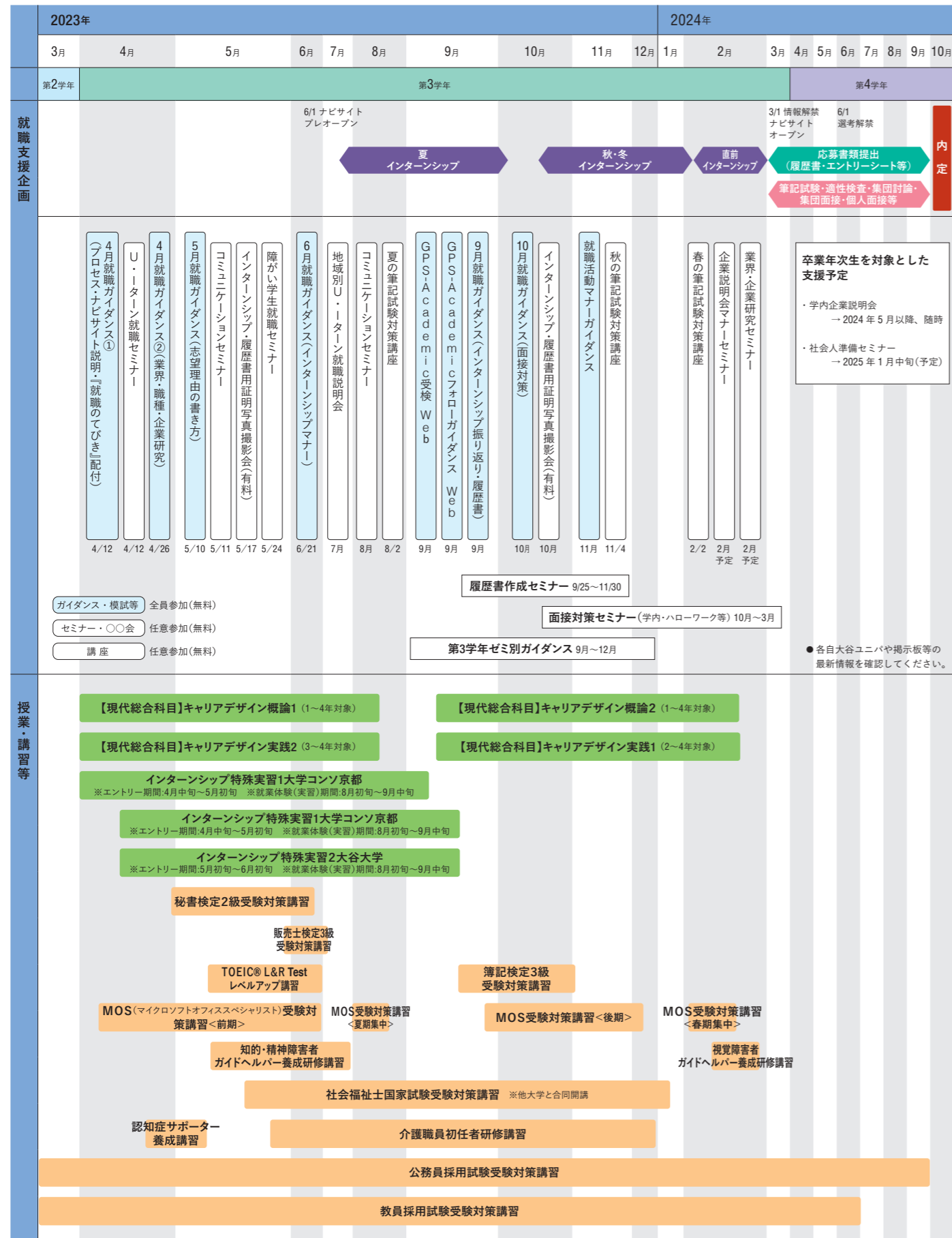
Club Information

- 2022年度秋季大会結果(2023.2.1時点)
- 陸上競技部
 - 令和4年度滋賀県民総スポーツの祭典 第75回滋賀県民体育大会 陸上競技 走幅跳 3位
 - 中西 連(文学部 歴史学科 第2学年)
 - 第77回国民体育大会選手選考会 成年男子三段跳 3位
 - 中西 連(文学部 歴史学科 第2学年)
 - 第4回滋賀陸上競技協会記録会 男子三段跳 2位
 - 中西 連(文学部 歴史学科 第2学年)
 - バドミントン部
 - 京都学生バドミントン新人戦大会
 - 【男子シングルス】
 - ベスト8 沼田 慧和(文学部 文学科 第1学年)
 - 令和4年度関西学生バドミントン新人戦大会
 - 【男子シングルスA】
 - ベスト16 沼田 慧和(文学部 文学科 第1学年)
 - 【女子シングルスB】
 - ベスト8 土居 宗一朗(文学部 歴史学科 第1学年)
 - ベスト16 塚本 麟(社会学部 現代社会学科 第1学年)
 - 【男子ダブルスB】
 - ベスト16 沼田 慧和(文学部 文学科 第1学年)
 - 塚本 麟(社会学部 現代社会学科 第1学年)
 - 【女子ダブルスB】
 - 優勝 鞭 通加(教育学部 教育学科 第2学年)
 - 中村 思絵瑠(文学部 哲学科 第1学年)
 - スポーツチャンバラ同好会
 - 第15回関西北陸学生スポーツチャンバラ選手権大会
 - 有段女子小太刀 優勝
 - 山口 悠夏(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 有段女子二刀 優勝
 - 山口 悠夏(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 山口 悠夏(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 有段女子長剣フリー 3位
 - 山口 悠夏(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 岩崎 誉(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 岩崎 誉(文学部 歴史学科 第4学年)
 - 岩崎 誉(文学部 歴史学科 第4学年)

※学年は大会時のものです

2023年度～2024年度キャリア支援企画 (2025年3月卒業・修了予定者) ※日程・企画は変更することがあります。

自らの人生を切り開いていけるよう、キャリアセンターを大いに活用しよう。 キャリアガイド



進路が決定した先輩の声を聞いてみよう [次ページへ](#)

キャリアセンターについて

卒業後の進路は、就職、進学、留学など様々です。キャリアセンターは、皆さんがキャリアデザインを描き、実現できるように、学年ごとにガイダンスや講座などを開催しています。詳細は、大谷ユニバ※でお知らせしますので、積極的に参加してください。また、資格取得に向けた講習や、公務員・教員採用試験対策講習を開講しています。将来の進路について、わからないこと、不安なことがあればキャリアセンターを利用してください。

進路・就職システム 「大谷大学就職ナビ」

進路・就職システム「大谷大学就職ナビ」を運用し、大学に届いた求人情報などを配信しています。学年を問わず、進路希望登録をした学生は利用可能で、学内外のパソコンだけでなく、スマートフォンでも確認できます。

U・インターン就職を希望する皆さんへ

地元で就職をしたい学生や、他の地域で就職を希望する学生を対象に、自治体の担当者や直接相談ができるU・インターン相談会を開催します。全学年対象で、低学年は、インターンシップについての相談もできます。

2022年度の就職活動を振り返って

新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、企業・事業所は採用活動を中止や延期にすることはなく、学生にとっては、コロナ禍以前と変わらない就職活動となりました。

2023年度の就職活動について

2024年3月卒業・修了予定者の就職・採用活動に関する日程は、従来通りとなりまして。例年同様、2月下旬に4日間、学内に96の企業・事業所を招いて開催した「業界・企業研究セミナー」に参加した学生は、採用担当者から直接説明を聞くことができました。そして、3月1日の広報開始から全国一斉に、大規模な合同企業説明会や個別の会社説明会、採用試験がWeb、対面で実施されました。Web、対面に関係なく、企業・事業所は、学生の意欲やコミュニケーション能力、マナー(挨拶、身だしなみなど)、声の大きさ、表情などにより、共に働く仲間としてふさわしいかを判断しているそうです。なお、就職活動を円滑に進めることができたのは、インターンシップに参加した学生、早期にエントリーシートを提出した学生、先述の「業界・企業研究セミナー」に参加した学生で、5月の連休明けには内定を得ることができました。一方、履歴書作成セミナーなどに出席せず、準備が遅れた学生や、多くの単位を残して時間調整ができなかった学生は、就職活動が長期化しました。

2022年度内定状況などの最終報告

キャリアセンターでは、就職活動の支援として、前期は5月から7月、後期は10月から12月に、1日1～3社の企業・事業所を学内に招いて企業説明会を開催しました。12月以降は、卒業に向けての学業の状況を確認しながら支援を行い、あきらめずに就職活動をした学生は、内定を得ることができました。

2022年度内定状況などの最終報告は、『じんげん as i i e 2023年秋冬号』に掲載する予定です。

第3学年の皆さんへ

就職・大学院進学など、希望進路を決めて準備をしてください。その一環として、9月に実施するGPS Academic(問題解決能力を確認するアセスメントテスト。入学時にも受験)を受検してください。入学時からの自分の成長を確認し、進路就職活動につなげることができます。

就職活動の第一歩は、インターンシップなどへの参加と言われているため、夏期休暇中に参加するためのガイダンスを前期に開催します。なお、企業・事業所がWeb上での説明会や採用試験を実施するため、パソコンやスマートフォンなどの通信機器に加え、WebカメラやWi-Fi環境を整えることが必要です。ただし、最終面接は対面で実施する企業が多いため、Webと対面、両方の対策をしなければなりません。そのため、後期には、就職活動本番に向けた履歴書作成や面接対策のセミナーを実施します。

なお、大学院進学については、早めの受験対策が必要であるため、指導教員に相談してください。

詳細は、次ページのキャリア支援企画

第2学年の皆さんへ

視野を広げることや職業観を身につけることに取り組んでください。例えば、資格取得です。取得した資格は、就職活動の履歴書でアピールすることができます。キャリアセンターでは、資格取得に向けた講習や教員、公務員採用試験に特化した講習を開講し、皆さんを応援しています。また、第2学年でも参加できる企業・事業所の企画があります。興味がある学生は、キャリアセンターに相談してください。

新入生の皆さんへ

「読む」「書く」「聴く」「話す」「考える」力は、社会人として必要な力です。所属する学科の学びを積極的に受講し、身につけてください。

また、GPS Academicの受験結果を参考に、自分を高めることを目標にしたり、資格取得(2023年度キャリア支援案内「参照」)にも挑戦してください。わからないことがあれば、キャリアセンターに来てください。

大学院の皆さんへ

就職や進学について質問や相談があれば、キャリアセンターに来てください。アドバイザーとの面談を通して、進路の方向性を見出し、企業・事業所から内定を得た先輩もいます。

＼ウターン就職をとおして、新しい友人ができました！／



就職先 愛媛県警察本部

(左) 三根生 誉将
社会学部 現代社会学科 2022年度卒業
(右) 竹本 海
文学部 歴史学科 2022年度卒業

初心を忘れず、身近な存在として、
生まれ育ったまちの安心・安全を守ります

生まれ育ったまちの安全と安心を守り、市民が毎日
を平和に過ごせるようなまちづくりをとおして、
地元へ貢献できる警察官をめざしました。

就職活動では、早い時期から対策をスタートし、
履歴書セミナーや、模擬面接などの大学のサポ
ートを積極的に活用しました。異業種3社のインター
ンシップや、模擬面接でのアドバイスでコツをつか
み、事前にしっかりと対策できたことが内定につな
がったと思います。また、学部も出身高校も違うけ
れど、同じ道を志す友人ができ、就職活動中は毎日
連絡をとりあって励ましあってきました。

警察官は敬遠されがちなイメージもありますが、
親しみやすく頼られる身近な存在になり、生まれ
育ったまちの安全と安心を守り、地元へ貢献したい
と思います。

愛媛のため、人々のために、
胸を張って誇れる仕事をした

大学進学で地元を離れ、あらためて愛媛の良さを再認識し、愛媛のために仕事がしたいと考えるようになりました。愛媛で暮らす人々のため、治安を守り、安全や安心に直接かかわることができる警察官の道を志しました。

大学では、学内ボランティアや学園祭実行委員会、オープンキャンパススタッフの活動など、大学時代にしかできない貴重な経験を積みました。言葉や行動に責任を持つこと、相手への気配りや思いやりの気持ちが、人とのかかわりにおいて重要であることを学びました。履歴書セミナーではアドバイザーに熱心にサポートをしていただき、大学での活動を振り返り、自己PRの整理や自信に繋がりました。社会人になってからも初心を忘れず、謙虚な姿勢で公務に臨んでいきたいと思っています。

地域の信用金庫で
地域社会の発展のために貢献したい

就職活動を行う中で、人が生きていくうえで大切なお金を扱う金融業界に興味を持つようになり、さらに地域の発展に貢献したいとの思いもあり、信用金庫を選びました。

周りに比べ就職活動を始めるのが少し遅れ、焦っていた私に対し、キャリアセンターの方が親切に相談に乗ってくださり、心強く感じました。アドバイザーとの面接練習や、自己分析を徹底的に行うことで、本番の面接では自分の強みをしっかりアピールすることができ、内定を獲得できたと思います。中小企業をはじめとした地域の人たちとの親密なコミュニケーションを通して、地域の役に立てるように鍛錬を積みたいと思います。



就職先 長浜信用金庫

大谷 直士
文学部 文学科 2022年度卒業

就職活動のあれこれ

晴れて内定が決まった学生5名に直撃インタビュー！それぞれの就職活動について話を聞いてみました!!



ホテルマンとして
大好きな地元で働く日を夢見ています

接客サービスを追求したいと思い、ホテル業界を志望しました。就職活動ではキャリアセンターや友人の存在が大きな支えとなりました。漠然とした将来への不安を持ち、エントリーシートをたくさん書く日々にも、些細な相談もできる環境があったことが、大きなエネルギー源になりました。面接練習を重ね、用意してきた言葉だけでなく、ありのままの自分自身を見せられるよう工夫できたことが、内定に繋がったと思います。

お客様に「あなたに会いに来た」と言われるようなホテルマンになって、いずれは大好きな地元に戻り、おもてなしを通して恩返しすることが目標です。

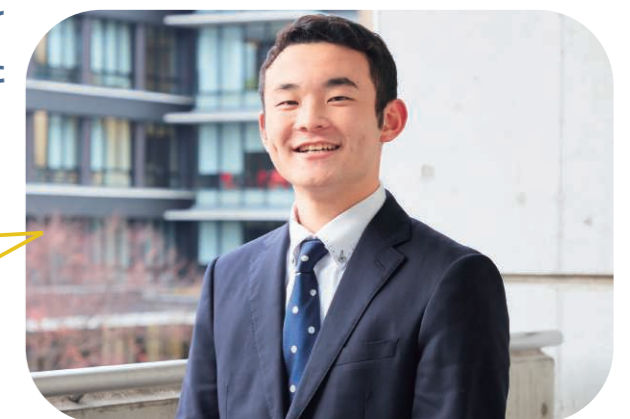
就職先 リゾートトラスト株式会社

山村 美結
文学部 国際文化学科 2022年度卒業

母校での授業補助を通して
子どもとのかかわり方を実践的に学びました

希望していた滋賀県の教員採用試験の特色がわかる学内の説明会に早期から参加したことで、計画的に準備を進められました。模擬テストでは、暗記科目が自分の苦手分野であると気づき、友人と問題を出しあうなどして対策をしました。

実践力をつけるために力を入れたのが学校ボランティアです。滋賀県の母校に週1回通い、担任の先生の補助をしたおかげで、子どもたちとのふれあい方や指導方法を実践的に学ぶことができました。教職アドバイザーによる小論文添削や模擬授業へのフィードバックも心強かったです。子どもたちがさまざまなことに挑戦できる環境を作れる教員をめざします。



就職先 滋賀県教育委員会 (小学校教諭)

鶴谷 龍汰
教育学部 教育学科 2022年度卒業

2006年度に創設された大谷大学教育後援会文芸奨励賞は、在学生を対象に「言葉による表現意欲を奨励すること」を目的に継続されてきました。「表現」にはさまざまな形がありますが、「言葉」による表現の奨励に大谷大学の伝統を感じさせていただいております。

2022年度は、「本心に大事なこと」をテーマに、218編の応募がありました。

「本心に大事なこと」。私自身も本学の出身ですが、在学中に同様のテーマを投げかけられ、生涯初レベルの大きな疑問符を感じたことを記憶しています。そして五十代の後半となった現在も、そのテーマは、問いのままです。

今回、応募作品の手書き文字からペンを持つ手をたどるように、キラキラした若さ、悶々とした思い、一人ひとりからぼとぼと感情の表現に触れさせていただき、問いがスタートで答えがゴール、というような単純なものではないと実感しました。

大学HPには「問い、続ける。」と、いわば本学の精神が表現されていますが、今後も、大谷大学が、在学生一人ひとりととって「本心に大事なこと」を問い、続ける。場所であり続けることを心から願っています。教育後援会はいつもお応援しています。

教育後援会会長 鷹橋賢淳



文芸奨励賞表彰式
2023年2月16日(木)

最優秀賞

社会学部 コミュニティデザイン学科 第3学年
島田 沙弥香(シマダ サヤカ)

人生の汚点だと思っていたことは、実は私を形作る大事なものであった。本心に大事なことは過ちの中にある。

優秀賞

文学部 仏教学科 第2学年
追田 菜々子(サカタ ナナコ)

ありがとう 五音に込める 温もりを冷めやらぬまに あなたへ返す

文学部 哲学科 第1学年
岡本 麻結子(オカモト マユコ)

中庭の隅のレモンの木
その葉っぱにもちっちゃな生き物
大きないのち。

佳作

大学院博士後期課程 仏教学専攻 第1学年
間野 岳雄(マノ ガクユウ)

友が逝き、私の心に穴が空いた。
私の心は私だけのものではなかった。

文学部 真宗学科 第4学年
岡本 照子(オカモト ヒロコ)

あたりまえなこと。
時間は戻せないこと。
未来は不確実なこと。
あたりまえじゃないこと。
今ここにいること。

社会学部 現代社会学科 第4学年
鹿田 大知(シカタ ダイチ)

社会は「迷惑の掛け合い」で
つくられていると気付くこと。
あなたためらわず
迷惑を掛ければいい。

文学部 真宗学科 第3学年
藤井 響流(フジイ コウリ)

「本心に大事なこと」がわからない。
そんな自分」と向き合っていくことが
大事なかもしれない。

文学部 真宗学科 第3学年
堀 和樹(ホリ カズキ)

本心に大事なことってなんだろう
考えても結局私にはわからなかった
答えがほしい自分がいた

文学部 真宗学科 第3学年
三輪 阿南(ミワ アン)

本心に大事なことは林檎のようにあちこちに成っている。
しかし手は二つしかなく、掴めるものはわずかである

文学部 仏教学科 第3学年
藤江 拓実(フジエ タクミ)

今の自分は、網のような人間関係の上にある。常に自分は一本の糸でなく、網の中に存在しているのである。

社会学部 現代社会学科 第3学年
岡本 宗久(オカモト ムネヒサ)

本心に大事なことは
まだ見えない。
だから現実や未来を
視る目を閉じない。
それが今の僕にとって大事なことです。

文学部 真宗学科 第1学年
源 唯翔(ミナモト ユイショウ)

本心に大事ではないものなんて、この世にない気がする。
だから全部を大事にしたいな。

文学部 文学科 第1学年
赤坂 悠多(アカサカ ユウタ)

本心に大事なことに格付けをしない。
私の大事なものは、道具じゃない。

文学部 文学科 第1学年
糸数 翔太(イトカズ ショウタ)

あれも大事、
これも大事、
たくさん大事が溢れすぎて、
本心の大事を見失っているのではないだろうか。

文学部 文学科 第1学年
黒田 愛実(クロダ マナミ)

粉々になった心は
元には戻らない
壊れかけの心なら
まだ修復できる
壊れる勇気より修復する勇気を

教育学部 教育学科 第1学年
齋藤 優和(サイトウ ユナ)

保育士になる。
海外へ行って世界を見る。
夢を持つと、
何気ない生活は
煌めき出す。
今日も生きようと思える。

人事情報

執行部の交代

【研究・国際交流担当副学長】
廣川 智貴

【社会学部長】
阿部 利洋

【国際学部長】
三浦 誉史加

【所長等の交代】
【実宗総合研究所長】
廣川 智貴

【入権センター長】
志藤 修史

【教育職員】
【教育職員】
川北 典子(教授/教育学部)

【教育職員】
平尾 良治(教授/社会学部)

【事務職員】
滝川 義弘(学生支援部)

【教育職員】
塩見 知利(特別契約教授/教育学部)

【教育職員】
大畑 啓(任期制講師/文学部)

【教育職員】
近江 望(任期制講師/教育学部)

【教育職員】
小野木 聡(任期制助教/文学部)

【事務系嘱託】
垣内 啓子(教育研究支援部)

片山 理沙(学生支援部)

神田 綾乃(総務部)
北村 文代(教育研究支援部)

桑原 知幸子(企画・入試部)
田村 雅子(教育研究支援部)

【寮監】
中村 美沙(自灯学寮)

【学習支援アドバイザー】
味村 考祐

【学習支援アドバイザー】
服部 久美恵

【PD研究員(実宗総合研究所東京分室)】
萩 翔一

【教育職員】
浦山 あゆみ(教授/文学部)

【事務職員】
篠塚 瑞希(教育研究支援部)

【事務系嘱託】
前原 利佳子(総務部)

【事務系嘱託】
内藤 佑美花(教育研究支援部)

【事務系嘱託】
小笠原 麻衣(学生支援部)

新規採用

【教育職員】
大畑 啓(講師/文学部)

川瀬 綾子(講師/文学部)

白取 耕一郎(講師/社会学部)

ターンプル ブレイク A(講師/国際学部)

川北 典子(特別契約教授/教育学部)

吹田 隆徳(任期制助教/文学部)

藤井 了興(任期制助教/文学部)

宗 周太郎(任期制助教/文学部)

【事務職員】
古賀 美沙子(総務部付)

【事務職員】
島田 ののか(総務部付)

【事務職員】
平出 桃実(総務部付)

事務系嘱託

青木 依子(学生支援部)

奥野 ほたる(教育研究支援部)

鹿子木 あゆみ(企画・入試部)

小森 宏美(教育研究支援部)

佐々木 千寿子(教育研究支援部)

駄賀 彩香(総務部)

内藤 唯(教育研究支援部)

藤井 典子(教育研究支援部)

【事務系嘱託】
山添 尚美(学生支援部)

【事務系嘱託】
山本 盟子(総務部)

授医

山口 智美(学生相談員)

粉川 尚枝(学習支援アドバイザー)

鳥越 覚生(学習支援アドバイザー)

大谷 琢磨(学習支援アドバイザー)

任 雅楠(学習支援アドバイザー)

藤貫 裕(学習支援アドバイザー)

【PD研究員(実宗総合研究所東京分室)】
鶴留 正智

【教授】
酒井 恵光(社会学部)

【教授】
佐藤 愛弓(文学部)

【准教授】
鎌谷 勇宏(社会学部)

【准教授】
西尾 浩二(文学部)

【准教授】
渡邊 大介(教育学部)

※学生の学年は、入賞作品発表時のものです。

2023年度学校納付金について

学校納付金の口座振替について
 本学では、学校納付金を口座振替により納入いただきます。金融機関窓口での振込手続きが不要となりますので、口座振替の登録にご協力ください。

学校納付金は1年分を「前期」と「後期」の2回に分けて、納入していただきます。前期納付金の納入期日(振替日)は、4月26日(水)「後期」は10月12日(木)です。振替日の前日までに対象の口座に入金いただきますようお願いいたします。学費納付通知書は、連帯保証人(学費負担者)宛に4月上旬「後期」は9月上旬に大学より発送しますので、ご確認ください。納入期日までに納入(振替)のない場合は、学則により除籍となりますのでご注意ください。

また、事情により期日までに納入(振替)が困難と予測される場合には、学生支援課において学費延納の手続きを4月17日(月)「後期」は10月2日(月)までに行ってください。学費延納の手続きには、「学費延納許可願」(所定用紙)の提出が必要となります。ご留意ください。

学校納付金はこんなことに使われています。

■ **授業料**
【授業】大学において最も重要な事業です。2021年度開設の国際学部をはじめとした複数学部体制のもとで、学びの実現に向けた授業を展開しています。
【学習支援室(LEARNING SQUARE)】

メディア教育に主眼を置き、3名の学習支援アドバイザーが常駐し、基礎英語・日本語の読み書きを中心とした個別指導を行っています。

■ **文藝塾** 高度な読み書き能力を身につけた学生を育成するために設置しています。「文藝塾講義」「文藝塾実践演習」などの文藝塾関連科目を中心に授業としての活用、また、課外活動や読書会等を実施しています。

■ **教職支援センター** 履修相談や実習などの事務手続きだけでなく、教職アドバイザーによる教員採用試験をはじめとした各種相談への対応、学校ボランティアの紹介、地域連携企画・運営など、教職課程に関わる支援を行っています。

■ **地域連携室(コミュニティラボ)** 各種地域連携プロジェクトに参加する学生を対象に、さまざまな活動への支援や外部の団体との出会い・対話を通して、社会を生きる力を養うための支援を行っています。

■ **語学学習支援室(GLOBAL SQUARE)** 国際交流の拠点として留学生と日本人学生の交流機会を提供するほか、学生が主体的に留学や外国語学習に臨むことができるよう支援しています。

■ **施設費**
 本部キャンパス・湖西キャンパスの各施設の維持管理を行っています。無線LAN整備等の学習面および新型コロナウイルス感染症対策の施設面に関する環境整備を進め、教育研究の充実をはかっています。

■ **学生会費**
 学生相互の自治に基づき学生生活全般の発展向上を目的として組織され、学生全員が構成員となります。学生会を基盤として、各

教育後援会だより

2022年度教育後援会事業について(報告)

■ **全国保護者懇談会開催**
 2022年9月17日(土)、本学を会場に「全国保護者懇談会」が開催されました。今年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前と午後の2部制で開催し、188名が出席されました。2023年度も、9月に「全国保護者懇談会」を開催を予定しております。是非、ご来場ください。

2022年度 開催状況

学生支援説明会
 * 教育後援会会長(保護者代表)の開催挨拶の後、学長および教育・学生支援担当副学長から、コロナ禍における大学の現状が報告されました。また、学生支援部職員からは、履修状況の確認方法や、奨学金制度などの学生生活の支援体制、さらに近年の就職状況の傾向や就職活動の支援体制についての説明が行われました。

教員との個別相談
 * 学生の演習での様子や履修状況など、学生生活のご不明点について指導教員との個別相談が行われました。

学生支援個別相談
 * 単位の修得状況や奨学金手続き、就職活動などについて個別の相談が行われました。

2023年度保護者懇談会開催について(お知らせ)

2023年度は左記のとおり保護者懇談会を開催する予定です。なお、全国保護者懇談会は、学生指導上、「履修単位通知書」の配付時期や、聴講登録修正期間等の学年層に鑑み、決定しております。是非、ご出席くださいますようお願いいたします。



全国保護者懇談会の様子



保護者懇談会(個別相談)の様子

2023年度 保護者懇談会 大谷大学フェア

- * 全国保護者懇談会
2023年9月16日(土)
場所: 大谷大学
- * 北海道地区保護者懇談会 / 大谷大学フェア(北海道)
- * 四国地区保護者懇談会
開催日・場所(検討中)

※開催日・場所などの詳細につきましては、改めて本学ホームページにてお知らせいたします。
 ※新型コロナウイルス感染状況等により、中止または延期となる場合があります。

【地区別保護者懇談会】
 該当地区在住の保証人へご案内いたします。
 【大谷大学フェア】
 本学の教育内容を広く社会に発信すべく、一般公開のシンポジウムを開催いたします。また、高校生・社会人対象の進学相談会も同日開催いたします。

教育後援会

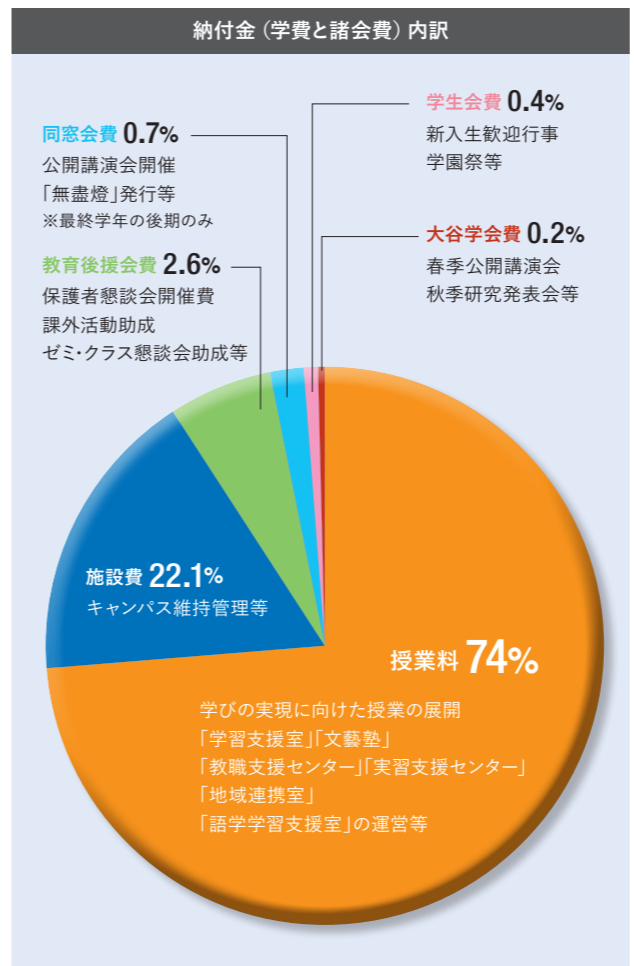
大谷大学教育後援会は、全在学生の保証人が会員となって組織され、大谷大学の教育・研究の発展と、学生生活環境の整備・改善に支援を行っています。また、会員相互ならびに会員と大学との交流を深めることを目的に、各種の活動を行っています。毎年、役員会・評議員会を開催してさまざまな事業を企画・推進しています。

大谷大学 校友活動 行事一覧

課外活動団体が組織運営されています。また、学生会員の日常生活の安定を図るための諸事業や、新入生歓迎行事、学園祭等の行事を行っています。

■ **大谷学生会費**
 本学の学術研究の推進及びその成果の公開を目的として、春季公開講演会や秋季研究発表会を行っています。それらは、「大谷学報」や「大谷大学研究年報」にまとめられて、配布されています。

■ **教育後援会費**
 全国各地で開催される保護者懇談会などの事業経費のほか、学生会やクラブ、学園祭等の課外活動へ助成しています。また、ゼミ・クラス懇談会への助成、学内食堂やグラウンド運行バスの助成、個人賠償責任保険への加入



教育振興資金(募金)について

2022年7月1日から2023年1月31日までの間、教育振興資金局へご寄付いただいた方々のご芳名は左記のとおりです。
 このたびは、募金活動にご協力いただき、ありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。今後も引き続き、募金のお申し込みを受けつけておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

税法上の優遇措置について

本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)ならびに税額控除にかかる証明(税額控除制度)を受けております。寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の優遇措置を受けることができます。確定申告の際、領収書を添えて申告をしてください。

教育振興資金寄付者 (敬称略)

【個人】		
岩田 理恵	(三重県)	
佐藤 賢隆	(滋賀県)	
藤林 優輝	(京都府)	
宮崎 真澄	(京都府)	
匿名 3件		
◆件数	7件	
◆寄付金総額	115,000円	

こんな寄付方法もあります!

京都市のふるさと納税を活用した地域連携促進事業

本学では、京都市のふるさと納税を活用した地域連携促進事業を行っています。京都市にふるさと納税をする際、「寄付の使い道」の一つとして「大谷大学と協働!」を選択いただくと、返礼品(※)や税制上の優遇措置に加え、寄付金については、大谷大学と京都市で取り組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。詳しくは大谷大学ホームページをご確認ください。

※総務省の告示により、京都市内にお住いの方には、ご寄付をいただいても返礼品を送付できません。

OTANI古本Project —ヒロガール×ツナガル学生支援—

本学では、読み終えた本や不要になった本(DVD・CD・ゲームを含む)を、指定会社へ送ることで、古本は次の読み手へ届けられ、本の売上げ金は大谷大学への「寄付金」となり、大谷大学在学が選ぶ大学図書(学生選書プロジェクト)の本の購入費用等となる事業を行っています。古本は、郵送または大学図書館設置の回収ボックスで回収可能です。この機会に是非、「OTANI古本Project」にご参加ください。

※買い取り価格は需要と供給で決まるため、寄付していただいた書籍等の状態が良くても価格がつかないこともありますので、ご了承ください。



Column

自由の落とし穴

子どもの頃、周囲にいくつも「空き地」があった。学校から帰ると、「空き地」で野球をした。秘密基地をつくった。落とし穴を掘った。「空き地」と呼んでいたが、誰かその土地の所有者がいたはずである。けれども、子どもにとっては、管理されない場所であった。何にも縛られず、「自由」にしていられる場所であった。

少し大きくなってからも、学校や家に縛られるのを嫌い、ときには「空き地」で寝転がった。せいっぱい背伸びをして、「空き地」でいろんな書物を読み、音楽を聴き、空想に耽った。「自由」と言っても、例えば「自由」をめぐる哲学の議論を知っていたわけではないし、当時話題となった新自由主義について十分に考えられたわけではない。何にも邪魔されず最大限に個人の力を発揮していける世界が実現しさえすればよいというだけだった。

現在の政治や経済の状況を受けて、なにより新型コロナウイルス感染拡大に直面して以降、ますます新自由主義や市場原理主義に対する反省が論じられるようになってきた。それを受けて、絵本作家の五味太郎さんは、「ガキたち、これはチャンスだぞ」と呼びかけ

た。賢い頭と丈夫な体ではなく、「じょうぶな頭とかしい体になる」ことが必要だと提案してきた人である。いまこそ自分の頭で十分に考えなくちゃいけない。世間であたりまえだと言われていることを、逆立ちして考えてみればよい。

いよいよ新学期である。学生たちと「じょうぶな頭とかしい体になる」ために学んでみよう。10代の頃に求めた「自由」は、考えるべきことがいくつも抜け落ち、まるで穴のあいたようなものだった。地面を踏みしめて自分の頭で考える必要がある。子どもの頃、「空き地」で友達とふざけて深い落とし穴を掘ったのをすっかり忘れてしまっていたことがあった。ある日また友達とそこで走り回って遊んだ。そして、自分たちがその落とし穴に落ちた。みんなが笑った。



文学部仏教学科 教授

箕浦 暁雄

研究領域・テーマ／古代インド仏教思想・アビダルマ・世親『俱舍論』

時代を照らす仏教のことば

慶ばしいかな、
心を弘誓の仏地に樹て、
念を難思の法海に流す。

親鸞『教行信証』(『真宗聖典』東本願寺出版部4000頁)

WHAT'S

じんげんasile?

『じんげんasile』は、学生・保護者・教職員3者による話題共有を目的とした学内広報誌です。
このタイトルは、本学の象徴である尋源(じんげん)館と、中世に存在した公的な避難所を表すフランス語「asile(アジール)」から命名されました。飛び立つ力をたくわえる「asile」のような大学でありたい、という願いが込められています。
ぜひ、友人や先生、家族と、この冊子を開いてみてください。

※本冊子には、撮影時のみマスクを外している写真が含まれます。